

お知らせ



クラブアドバイザーも 資質・技能の向上を目指しています！

クラブを運営されているみなさまに寄り添って活動をしているクラブアドバイザー。全国で活動するクラブアドバイザーは、毎年一堂に会して資質・技術向上のための研修を受けています。昨年度に引き続き、その研修の様子をご紹介します！

| クラブアドバイザーとは？

クラブアドバイザーは、総合型クラブが地域スポーツの担い手として重要な役割を果たしているよう、クラブの創設から自立・活動までを一体的にアドバイスすることを目的に活動しています。

日本体育協会では、平成28年度は34都道府県体育（スポーツ）協会に34名のクラブアドバイザーを配置しています。

| クラブアドバイザーミーティングとは？

日本体育協会が配置しているクラブアドバイザー等を対象に、その資質と技能の向上を図ることを目的に実施しています。

平成28年度は、日本体育協会が策定した「総合型地域スポーツクラブ育成プラン2013」において緊急度・重要度が高い取組みの一つとして挙げられている「スポーツ推進委員との連携」をメインテーマとして、5月26日（木）・27日（金）の日程で行われました。

1日目 5/26（木）

講演兼アイスブレイク

コミュニケーションスキルを高める！
～クリティカル・シンキングを身につける～

講師：島根宏幸氏（アソビュー株式会社）

これまでクラブアドバイザーから本会へ寄せられたご意見（クラブへのアドバイスや提案を行うにあたり、コミュニケーションスキルが重要である）にお応えし、グロービス・マネジメント・スクールにてコミュニケーションスキルを含んだ「クリティカル・シンキング」講座等の講師としてご活躍されている島根氏より講演いただきました。

また、この時間の中では、参加者間のアイスブレイクも兼ねて、説得力のある提案を考えるグループワーク等も行いました。



講演内容(一部)

- クリティカル・シンキングは、効率的・効果的なコミュニケーションに役立つ。
- クリティカル・シンキングは、マーケティングやリーダーシップなどのマネジメントスキルの基礎となる。
- 説得力のある提案には、以下の3点が必要である。
 - ① 相手が知りたいことにきちんと答えている [イシュー (論点)]
 - ② 考えるべき論点が押さえられている [枠組み]
 - ③ 結論に至る根拠に納得感がある [主張と根拠]

2日目 5/27(金)

説明

スポーツ推進委員制度の概要について

説明者：園山 和夫氏 (公益社団法人 全国スポーツ推進委員連合専務理事)

全国スポーツ推進委員連合の園山専務理事から、スポーツ推進委員制度の変遷、求められる資質と役割等について説明いただきました。



説明内容(一部)

- 昭和36年に「スポーツ振興法」によって、体育指導委員が法制化され、市町村教育委員会が任命するようになった。スポーツ実技指導やスポーツに関する指導助言などインストラクター、アドバイザーといった役割を担っていた。
- 平成11年にスポーツ振興法が一部改正され、任命制から委嘱制に変更となった。
- 平成23年のスポーツ基本法の制定に伴い、名称が「体育指導委員」から「スポーツ推進委員」へ変更となり、コーディネーター(スポーツ推進のための事業実施に係る連絡調整)としての役割が追加された。
- スポーツ推進委員に求められる資質は「社会的信望」、「スポーツに関する深い関心・理解」、「職務を行うのに必要な熱意・能力」である。
- スポーツ推進委員は、「地域づくりの視点」を持って活動していくことが求められる。

講演

スポーツ推進委員の役割・活動内容と総合型クラブとの関係性

講演者：土谷 忠昭氏(公益社団法人 全国スポーツ推進委員連合理事)

全国スポーツ推進委員連合理事で、平成26年度までクラブアドバイザーを務めていた土谷氏は、総合型クラブとスポーツ推進委員のいずれにも精通しています。今回は、その知見からスポーツ推進委員の役割・活動やクラブアドバイザーとスポーツ推進委員との連携に関する講演をいただきました。



講演内容(一部)

- 体育指導委員からスポーツ推進委員になったことにより、コーディネーター(連絡調整)としての役割が追加された。
- 連絡調整をするためには、住民の立場となり、住民とスポーツ推進委員がお互いに活動していくことが重要であり、コミュニケーション等の能力も求められる。また、ネットワークづくりを意識することが必要である。
- スポーツ団体としては、運営から経営へ意識を転換させ、スポーツに関わる団体を一枚岩にすることが重要である。
- 総合型クラブの経営(運営)には、みんな(スポーツ推進委員、クラブ会員)がわかる言葉でクラブの理念を共有することが必要であり、地域の財産を有効に活用し、魅力あるクラブ・事業を行うことが大切である。
- クラブアドバイザー・スポーツ推進委員には、地域の課題把握、クラブごとの課題把握、運営と経営の違いのアドバイス、行政・クラブ地域の連携等の役割が求められる。
- クラブ、会員、地域、行政のみんなが責任を持つと地域が変わる。

事例発表

スポーツ推進委員との連携・協働について

発表者：小内 清子氏（東京都クラブアドバイザー）

東京都クラブアドバイザーであり、スポーツ推進委員も務める小内氏より、スポーツ推進委員としての活動や総合型クラブとの連携に関する事例発表をいただきました。

事例発表後には、説明・講演を踏まえて、「スポーツ推進委員との連携が上手く行っている点、なかなか難しいと思っている点を出し合って、より良い連携を模索する」をテーマとしたグループワークが行われました。

発表内容（一部）

- 東京都のスポーツ推進委員の委嘱は、教育委員会や体育協会等が行っている。推進委員の一般公募は一部の市区町村では行われているが、地域推薦が多い。
- 東京都のスポーツ推進委員は、40代から60代が全体の8割を占めている。
- 課題は、スポーツ推進委員の認知度が低いこと、なり手がいないことである。
- スポーツ推進委員規則に、スポーツ推進委員の職務として、総合型地域スポーツクラブ等の組織の育成を図る等が明記されている区もある。

グループワーク内容（一部）

参加者からは「まずは総合型クラブの関係者とスポーツ推進委員がお互いのことを知ることが重要」といった意見や、「スポーツ推進委員には、行政と総合型クラブの間に入るパイプ役となってほしい」といった今後の連携に向けた積極的な意見が多く出されました。

